

市場動向

(2024年2月～2024年4月)

赤坂地区

売買状況

(土地・建物)

赤坂の大きな売買取引事例としては計3件行われた。

赤坂3丁目のSKR AKASAKA(2018年竣工、延床面積370㎡)が競売でリサ・パートナーズへ7億8千万円で取引された。

更に赤坂6丁目の事務所ビル(1989年竣工、延床面積1,888㎡)、同じく6丁目の住居ビルが売買された。

賃貸状況

新規来店客数は月に2～3件、出店動機は他エリアからの増店や独立など様々である。
10坪前後のバー・クラブの需要は変わらず高く、募集開始と同時に内見、申込みまでのスピードが早く、成約に至るまであまり時間を要しない。

飲食店はインバウンド層をターゲットにした出店が見受けられ、大衆居酒屋などの業種が挙げられる。
これまで比較的空室傾向にあった物件も決まりつつあり、全体的に店舗物件は盛況している状況と言える。

事務所物件に関しては20～30坪の物件は、純粋な事務所やサービス店舗で引き合いがあるが、40坪以上は以前と変わらず空室が続いている。

街の状況

赤坂駅の新国際ビル再開発事業も着々と進んでおり、そこに注目して2丁目、6丁目に出店したいという声も多く見受けられる。

赤坂サカスにて定期的に催されるポップアップには連日多くの人を訪れ、春休み期間には店舗の前に長蛇の列が出来ており、アクトシアター観劇客とで赤坂駅周辺は週末も賑わっていた。

平日の昼時はテレワーク企業が減少している影響からなのか、通りには人が多くランチのピーク14時を過ぎても混み合う店舗が多い。
これから更に人々の動きが活発になり、街全体が盛り上がっていく光景が戻ることを祈る。